

2022年8月22日

太田隆次

今朝のNHKの「あさいち」で野口聡一さんがゲスト出演、小学校時代の宇宙飛行士への夢の作文と絵をご紹介され、楽しく拝見しました。

## 私の夢

睡眠中に見た夢では：

熊に追いかけられ捕まる寸前に忍者のように手を結んで空中に飛び上がって助かる怖い夢を幼い頃、時々見ました。

現実の世界での夢では：

国民学校時代

- ・学科の「工作」が大好きで、割り箸を何十本もご飯粒でくっ付けて、屋根から玄関まで家の模型を作って将来を夢見ました。
- ・母親の裁縫箱から使い古しの糸巻きを失敬して、輪ゴムを巻き付けて前に進む動く「戦車」(?)を作ったりしました。
- ・竹を薄く削って模型飛行機を作り、広場で友達と飛行距離を争ったりして遊びました。輪ゴムを直列につないで飛行時間を伸ばそうとしましたがうまく行きませんでした。
- ・戦時中ですが購読していた「少年くらぶ」に「発明展」があり、最優秀賞はミニサイズの球状にした機雷を近くまで飛ばして着陸後、自動的に開いて爆発する仕掛けに感心しました。今でも覚えているのは余程感心したのでしょう。
- ・同じく「少年くらぶ」で(戦後?)ロケットの漫画を夢中になって読みました。

中学校時代

- ・「キューリー夫人伝」に心酔のあまり、親にせがんで実験道具をワンセット買って貰い、将来は化学者になるのが夢でした。

- ・野球が好きで、国民学校時代は直球しか投げられませんでした。中学に入って放課後のクラブ活動で野球部に入り、曲がるカーブを投げる先輩のピッチャーに投げ方を教えて貰いました。

はじめはとんでもない方向にいった自分の投げたボールが、キャッチャの手前で曲がった時は、夢かと思う程、嬉しかった。

## 社会人になって

- ・中国戦線で日本軍のトラック運転手だったという老先輩から、はじめての中国の真っ暗なくねった山道を走るのは怖かった、ハンドルに連動して右に左に、上に下にと照らしてくれれば、と何回思ったか知れないとよく言っていました。

自分が免許を取ってから、夜間に高速で長距離運転時に対向車のヘッドライトの眩しさに迷惑したり、自分の車のヘッドライトをその都度、下向きにしたりしたものでした。

それが、最近、ヘッドライトの最大手メーカーの小糸製作所が「変光ヘッドライト」なるものを開発し、こういう手間が省けるようになったそうで、まさに夢のヘッドライトです。

<https://www.youtube.com/watch?v=F0sdn3fQceM>

- ・駆け出しのサラリーマン時代、折からの日科技連主導の{TQC}のあおりで、コピーを取る作業が多くなり、当時は「リコピー」と称し薄い原稿に青色のコピー用紙を重ねて発光ロールに巻き付けて青色に発色したコピー用紙だけを分離回収するという単純な作業でした。

難点は書いた原稿が巻き込まれて戻ってこないことがあることでした。その時は初めからやり直してイライラしました。

そこで一念発起、トラブルと私の対策案を添え、当時のリコーの市村清社長に直送しました。折り返し社長名義で丁寧な礼状が来ました。

その後、どう変えたのかトラブルもなくなり、会社も原理も違う「ゼロックス」時代になり今日に至っています。本日まですっかり忘れていました。

## 未来への夢

石炭や石油や天然ガスなど化石燃料もやがてなくなり、頼みの太陽光発電も国土が狭く、切り札の原発も地震や津波の危険があり、我が国の発電の将来は暗いと言わざるを得ません。

残るは洋上風力発電ですが、問題山積で600億円かけた福島沖の洋上風力発電も課題を残したまま撤去されました。

以下は参考写真と参考記事です

## 福島沖の洋上風力発電を全て撤去 600億円投じた事業が不採算

2020/12/18 06:00

経済産業省は17日までに、福島県沖に設置した浮体式洋上風力発電施設を不採算を理由に、来年度に全て撤去することを明らかにした。東京電力福島第1原発事故からの復興の象徴と位置付け約600億円を投じた事業。政府は15日、洋上風力を再生可能エネルギーの柱として原発45基相当の規模にする目標を決めたばかりだった。



福島県沖の浮体式洋上風力発電施設。奥は東京電力福島第2原発

でも政府はこの経験を生かし、今後、銚子、秋田など数か所で洋上風力発電設備を建設する計画を進めています。まさに最後の切り札であり夢です。

秋田の海に高さ 150m の発電風車 11月にも営業運転



© 朝日新聞社 国内初の大規模な

洋上風力発電に向けて設置された風車。早ければ11月にも営業運転に入る  
=2022年8月18日、秋田・能代港、内藤尚志撮影

秋田県の海上で風力発電所の建設が大詰めを迎え、巨大な風車が並び始めている。

開発する会社は18日、11月にも一部で営

業運転を始める計画を明らかにした。大規模な洋上風力発電は有力な再生可能エネルギーとして欧州などで普及するが、日本では初めて。冬の電力不足の緩和にも一役買いそうだ。

風力発電所の建設が進むのは、能代港沖と秋田港沖の2カ所。計33基の風車は海底から立つ着床式で、海面から羽根の最高地点まで150メートルほどあり、40階建てのビル並みだ。大手商社の丸紅を軸に、大手電力会社や建設会社などが出資する秋田洋上風力発電(秋田市)が開発を担う。2020年に着工し、22年末までに営業運転を始める目標を掲げている。

終わり